



かけはし

第199号

2025年9月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

令和七年度

峡南地域教育推進連絡協議会（地推協）

望月公隆 新会長 あいさつ



望月公隆 会長

今年度、峡南地域教育推進連絡協議会の会長を務めさせていただきます。私は早川町役場に四十三年間奉職し、最後は副町長として退任しました。現在は教育委員として活動しており、この度、地推協の会長として、峡南地域全体の教育に関わることになりました。

現在の社会は、少子高齢化、グローバル化、社会のつながりの希薄化など様々な問題があり、教育を取り巻く環境は急激な変化の中にあると言えます。特に峡南地域は、児童生徒数の減少に伴い、小中学校の統廃合は避けては通れない課題の一つになっています。地域の子どもたちは地域で育てると言われますが、幾多の課題により、支えるべき地域そのものが困難な状況にあると思います。しかし、だからこそ、地域が家庭・学校と連携し、社会全体で子どもを育てるこの重要性を喚起していく必要があると考えます。

本協議会は関係団体や地域住民への情報発信、そして学習の機会などを提供することで相互連携を図り、峡南地域の子どもたちが将来にわたって幸せな人生を送ることができるよう、最良の教育環境を提

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからも御覧になれます。(QRコード)



目次: 1
令和七年度 峡南地域
教育推進連絡協議会
望月 公隆 会長あいさつ
峡南地域 教育フォーラム
那波 秀和 氏 講演

ことぶき勸学院だより 2

連携型中高一貫教育事業 3
身延高・身延中・南部中

青洲高校の合唱を聴く会

さちかぜ号・交通安全教室

「千の風」朗読会 4

LEGOの世界で「ジェンダー平等」「多様性」について学ぼう!

富士見支援学校・旭分校の
教育相談



処暑を過ぎ、9月になって2週間ほどが過ぎました。暑さも和らぐ時期のはず…ですが、まだまだ暑い日も続きそうです。体調に気をつけながら、自分なりの「〇〇の秋」を見つけて楽しみましょう。

供することを第一と考え、活動を推進していきます。四名の副会長をはじめ、役員の皆様や関係諸機関のご協力をいただきながら、峡南地域の教育推進のために、微力ながら努めて参りたいと思います。ぜひ、皆様方のご指導・ご協力をお願いいたします。

峡南地域

教育フォーラム

「人と夢を売ろう」

(株)ひまわり市場 代表取締役

那波 秀和 氏



秀和さんの講演会が地推協の主催で行われました。

那波さんは冒頭「講演の目的は地域活性化の一助にしたいため、目標は峡南地域のみ

なさまに火をつけること」とお話され、自己紹介と会社紹介から講演を始められました。講演では「なぜ定価で大量に販売しているのか」「なぜ負債をゼロにできたのか」「なぜ求人にお金をかけずに凄腕人材が集まってくるのか」という「ひまわり市場の3つのなぜ」について、その答え合わせを丁寧にお話いただきました。講演はスーパリーの経営にまつわることが中心でしたが、随所に学校経営や地域社会の活性化にも生かせるヒントがいくつも詰まっていました。質疑応答では「マイクパフォーマンスの秘訣は？」という質問に対して「商品について嘘をつかない、他の商品と比べないの二点を心がけている」とお答えになりました。参加者からは「うそをつかない、他と比べないは教育において大切なこと」「明日からまた頑張ろうというエネルギーをいただきました」等の感想が多数寄せられました。人と夢を大切にする那波社長の熱い思いを感じる素晴らしい講演会となりました。

ことぶき勸学院だより

一年生 高齢者の食生活と運動

六月十七日(火)、一年生を対象に「高齢者の食生活と運動」の講義が行われました。講師は今年の春の叙勲において「旭日双光章」を受賞された田草川憲男先生です。講義に先立ち、受賞のお祝いとして、先生にお花が贈呈されました。



講義では、健康で自立して活動し生活できる期間としての「健康寿命」が大切であること、その阻害要因は過剰栄養による生活習慣病の後遺症と、低栄養によるフレイル(虚弱)であるという説明がありました。「高齢者が二週間寝たきりの状態にいると、筋肉を七年分も一気に失う」という話には、

受講者一同、大変驚きました。



自分の適正な体重を知り、バランスのとれた食事を行うことが大切であることを強調され、教室の後ろに並べられた食事の写真から、普段の食事を見直す活動も行いました。この活動の結果は、田草川先生がコンピュータで結果を分析し、後日、各受講者に返却されました。

二年生 心身の健康管理

七月四日(金)に市川三郷町生涯学習センター体育館にて、県スポーツ協会の松山祥一さんを講師に迎え、心身の健康管理についての講座が行われました。松山さんによると「ロコモとはロコモ

ティブシンドロームの略で、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態」とのことでした。運動習慣のあるなしがこのロコモ予防には大切で、健康寿命を延ばすには適度な運動を行うことがとても効果的です。説明後は皆でロコモチェックを行い、自宅でできる免疫力アップ体操と筋力トレーニングの実習等を行いました。当日は、蒸し暑さを感じる日でしたが、皆さんは暑さに負けず、水分補給をしながら、元氣いっぱい体に動かしていました。



日本文化を楽しむ 「雅楽の鑑賞」

七月二十五日(金)に、甲府市リッチダイヤモンド総合市民会館を会場に、県内の四教室合同による「雅楽の鑑賞」講座が開かれました。穴切大神社宮司の秋山忠也さんを講師に迎え、



前半は雅楽と演奏に使われる楽器についての説明があり、後半は雅楽を学んでいる方々による管絃と舞楽を鑑賞しました。説明の中にはちよとしたクイズや雅楽が語源とされる日常語(「やたら」「やば」)等についても紹介され、千数百年の伝統を有する雅楽の魅力と奥深さについて学ぶことができました。また、合間には普段は触れることができない笙(しょう)や箏(そう)など、楽器を受講者が実際に体験する時間も設けられ、楽しみながら雅楽を学ぶことができたのも楽しい講座となりました。



二年生 青洲高校音楽部との交流

八月八日(金)に青洲高校にて、二年生が音楽部の生徒と交流会を持ちました。



二年生はこれまで高野裕先生の指導のもと、勸学院祭で「平和」をテーマにした朗読劇を発表したり、また戦後八十年を迎える今年は、沖繩に実際に足を運び、平和についての学習をさらに深めたりしてきました。今回の交流会では、その成果

を盛り込んだ朗読劇『カボチャの種が』と『沖繩』の発表を勸学院生が行い、青洲高校の音楽部の生徒が合唱を披露するという形で行われました。途中、高校生たちと勸学院生が一緒になって童謡を歌う微笑ましい場面もありました。

それぞれの発表後には、互いの感想を述べ合いましたが、高校生からは「今日の発表で戦争について改めて考え、平和を語りついでいかなければいけないと感じた」という声が聞かれました。またある勸学院生は「自分たちの思いが高校生に通じたと感じ、とてもうれしかった」と感慨深げに思いを述べていました。

世代を超えて、ともに平和についての思いを新たにしたい、素晴らしい交流会となりました。



身延・南部地域 連携型中高一貫教育 連携事業
授業アシスト／防災セミナー／サマーセミナー

身延高校・身延中学校・南部中学校の三校による連携事業の中から三つ（授業アシスト・防災セミナー・サマーセミナー）を紹介します。

【授業アシスト】

この連携事業では、高校の教員が中学校の授業に赴いて生徒を支援する取組と、中学校の教員が高校の授業に赴いて生徒を支援する取組の二つの授業アシストが行われています。高校教員による授業アシストは中学校三年生の数学を、中学校教員による授業アシストは高校一年生の数学と英語を対象としています。アシストを受けた高校生からは「丁寧な質問に答えてもらえる」といった感想が、また中学生からは「高校ではこんな風に行っている」ということも教えてもらえました。また、先生方からは「中学までにどんな風に学んでいるかが理解でき、高校入学後の指導にも役立つ」（高校）や「お互いに顔をよく知っているの



で、質問しやすいようだ」（中学）といった感想が聞かれました。

【防災セミナー】

七月三十一日（木）に、身延町交通防災課の坂本新次さんを講師に、防災セミナーが行われました。災害とその備えについての講義の後、高校生と中学生が協働し、防災テントや段ボールベッドを実際に組み立てるワークショップも行われました。閉講式では、代表の生徒から「災害時には自分たちがリーダーとなって、この地域を支えたい」と大変頼もしい言葉を聞くことができました。



【サマーセミナー】

八月四日（月）・五日（火）の午前中に、身延中と南部中の三年生の希望者を対象に、国語・数学・英語の三教科について、高校入試の過去問題等を用いたサマーセミナーが行われました。参加した生徒たちは真剣な眼差しで高校の先生の説明に耳を傾けていました。この講座での学びが、今後の入試に向けた学習の指針になればと思います。



青洲高校の合唱を聴く会
六郷中学校・六郷小学校

七月十日（木）に六郷町民会館にて、青洲高校の合唱を聴く会が開かれました。これは、六郷中学校が主催し、六郷小学校の五・六年生とともに、青洲高校の音楽部の合唱を聴くという会です。

会では、青洲高校の音楽部が「虹」「正解」、ミュージカル『レ・ミゼラブル』より「レ・ミゼラブル」「夢やぶれて」「オン・マリ・オウン」「ハート・フル・オブ・ラブ」「民衆の歌」などを素晴らしいハーモニーを響かせて披露しました。アンコールでは「青洲高校校歌」が歌われました。

顧問の薬袋直哉教諭は「練習の成果を発揮し良い演奏ができた。この地域を大切にしたいという思いがあり、私たちの後輩である皆さんを前に演奏できて光栄である。青洲高校で、一緒に校歌を歌えればと思う。」と挨拶されました。

代表の中学生からは「皆さんの合唱



は、ひとり一人の声が響いていて、迫力がありとても素敵な歌声でした。私たちの合唱はまだまだ課題があるので、今日の合唱を参考にして、学園祭で披露する合唱の練習に励みたいですね」と感想が述べられました。



さちかぜ号交通安全教室 南部町立保育所

七月十六日（水）に栄保育所にて、南部町立の栄保育所・富河保育所の子どもたちを対象に「さちかぜ号交通安全教室」が開かれました。



最初に、山梨県警の石山警部補と南部警察署の伊藤巡査により、交通安全における「四つのやくそく」のお話がありました。続いて、県警の荒木巡査部長がけんちゃん（人形）と掛け合いながら、「四つのやくそく」をけんちゃんに教えてあげよう」と子どもたちに呼びかけました。子どもたちは、交通ルールをしっかりと覚え、けんちゃんにきちんと教えることができていました。最後は、講師三名による信号の説明がありました。最初から最後まで、子どもたちが楽しみながら交通ルールを学べる工夫が随所に施されており、一時間があっという間に過ぎました。子どもたちには交通ルールを守り、一つしかない命を大切にしてほしいと願います。

石山警部補によると、この交通安全教室のような取組の実施が近年、減少傾向にあるそうです。「交通安全は園や学校における教育の重要な一部であることを再認識してほしい」と力説されていました。



朗読ボランティア「千の風」朗読会 『戦後八十年 あなたは今』

七月二十七日(日)身延町総合文化会館ホールにおいて、朗読ボランティア団体「千の風」による平和をテーマにした朗読会と座談会が行われました。



朗読会は、地元的身延小学校と下山小学校の児童三名による朗読からはじまり、「千の風」のメンバーが続きました。声の抑揚や息づかいを耳にしながら、戦争の悲惨や平和の希求を聴衆の心にまっすぐ訴えかけることができるのは、まさに朗読という「人の声」が持つ力なのだと思えて認識させられました。

後半は富士川町在住の作家・江宮隆之さん、詩人のアーサー・ビナードさん、「県原水爆被害者の会」会長の日向偉夫さんの三名による座談会が行われ、朗読された作品の話から、ノーベル平和賞の光と影や、唯一の被爆国である日本における原発の意味など様々な話題について率直な意見が交わされました。

題名の通り、「戦後八十年を迎えた今、あなたはどうか、どう行動するのか」と聴衆に問いかける朗読会・座談会となりました。



レゴの世界で「ジェンダー平等」「多様性」について学ぼう！



七月三十日(水)に富士川町民会館にて、山梨学院大学非常勤講師の田中実さんを講師に、レゴを用いた講演会がぴゅあ峡南の主催で行われました。

最初に、田中さんからSDGs(持続可能な開発目標)とウエルビーイングについての説明がありました。世界経済フォーラムによる世界男女格差報告書の今年度版によると、日本のジェンダーギャップ指数は百四十八カ国中で百十八位で、特に経済と政治の分野でその格差が大きいそうです。また近年、よく耳にするウエルビーイングは、精神的・身体的・社会的に良い状態にあることで、これはSDGsともつながりがあることだと田中さんは説明されました。

その後、班ごとに、自分の理想の社会をレゴで表現するワークショップが行われました。田中さんは「限られた部品で作っても、どれ一つ同じでなく、違うからといってダメということはない」とレゴ作成から見える多様性について、わかりやすい表現で子どもたちに語りかけていました。



富士見支援学校旭分校は応援します！ 教育相談のご案内

皆さんは山梨県立富士見支援学校旭分校(以下、旭分校)をご存じですか？ その所在地(韭崎市)が峡南地域ではないので、ご存じない方も少なくないと思います。では、なぜ本誌「かけはし」で取り上げるのでしょうか？ それは、旭分校が、実は峡南地域(市川三郷町・富士川町・早川町・身延町・南部町)の教育相談や情報提供等の支援を行うセンター的機能を担っているからなのです。

旭分校は病弱・身体虚弱児を対象とした病弱特別支援学校です。旭分校のセンター的機能では、心身症等心因性疾患、病気や発達障害の二次障害等、心に様々な悩みを抱え特別な支援が必要な児童生徒が、安心していきいきとした学校生活を送るための指導や援助について、児童生徒および保護者や関係する教職員の方々に相談や情報提供を行います。就学前から高校生までの児童生徒に対応しています。支援対象地域には峡南地域も含まれています。保護者の方で、お子さんが「学習意欲がわかず、勉強したくない」「頭痛や腹痛などの身体症状が表れ登校できない」「友達とのコミュニケーションに悩んでいる」等のことで心配されている場合など、面接相談・学校見学・電話相談等、状況に応じた対応を行います。

富士見支援学校・旭分校より

センター的機能の活用や相談がございましたら、まずは旭分校までお気軽にご連絡ください。

電話番号：0551-22-7144

FAX：0551-22-7143

右の2次元コードをスマートフォンなどで読み取ると旭分校のHPが見られます。



また、学校の教職員についても、授業を観察し指導の助言を行う訪問支援、特別支援教育に関する研修会、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」作成への指導助言等に応じています。

特別支援教育コーディネーターの志村希和子教諭からは「もし、何かお子さんのことで気になることがあれば、旭分校に相談してみたいという選択肢もあることを、この機会にぜひ知っていただきたい」とのお話がありました。

